

相談支援部会 報告書

会議名	第3回 相談支援部会		
開催日時	令和6年2月29日(木) 10時00分～12時00分		
開催場所	板橋区役所 北館9階 大会議室 A		
出席者数	16名(欠席1名)	傍聴者数	2名

報告事項(3件)

議題名	基幹相談支援センターの事業報告		
概要	基幹相談支援センター、地域生活支援拠点等の事業内容について、令和5年度の事業の取組内容を報告した。		
主な意見・回答	<ul style="list-style-type: none"> ・課題は理解した。これらの対策・方策はどのように考えているか。 →制度的な問題や事業所、支援員の数などについては、すぐに解決は難しく、どうしたらよいかという課題もある。部会員の方々から意見をもらい、自立支援協議会としてこの課題をどう捉えるかという投げかけをしていきたい。 		

議題名	地域生活支援拠点等の整備状況について		
概要	整備状況、令和5年度の取組内容について、報告・説明した。		
主な意見・回答	意見なし。		

議題名	板橋区障がい者計画2030及び障がい福祉計画(第7期)・障がい児福祉計画(第3期)について		
概要	板橋区障がい者計画2030及び障がい福祉計画(第7期)・障がい児福祉計画(第3期)について報告し、意見を募った。		
主な意見・回答	意見なし。		

協議事項(2件)

議題名	相談支援体制強化のための事例検討(グループワーク)		
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時対応(高齢の親が倒れ、ひとり自宅に残された本人への支援)に関する相談支援専門員の事例を使い、相談支援専門員の行動について評価と振り返りを行った。 ・グループワークとすることで一人ひとりの発言を促し、様々な視点から相談支援に関する考え方を共有した。 		
主な意見・回答	<p>■Aグループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急時の動きを関係者間で共有、何か起こる前に役割を明確化しておくことが大切という意見が全員統一していた。 ・緊急発生時、誰がどのように動くのかという入口が必要であり、その入口が複数あること。また、障がい福祉サービスなどを事前に体験することも円滑な支援に繋がる。 ・何か起きる前の対策としては、区の体制整備として統一された安心支援プランが有効。 		

主な意見・回答	<p>■Bグループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親亡き後に備えることも大事だが、親がいるうちから、ご本人と親の両方が支援を受けられるような、「家族丸ごと支援」の体制が必要。 ・相談支援専門員が第三者の立場で、ご本人と親の間に入り、「いざ」というときにどう動くかを話し合っておくことが大切。 ・ケアマネージャーと連携することが、障がい福祉サービスから介護保険サービスへのスムーズな移行に繋がること、先の人生を見通せることに繋がることを家族に提案していくことも必要。 <p>■Cグループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係性づくりをしなければいけない。早い段階で本人や家族へアセスメント、聞き取りをしながら本音を話し合える関係性づくりが重要。本人と家族も社会地域の一員であること、支援員、本人、家族が意識できるような関わりができることと良い。
今後の方向性	今後も事例検討を行うことで、板橋区としての相談支援体制を強化していく。

議題名	地域課題の整理（グループワーク）
概要	<p>以下3つのテーマをそれぞれ3グループに分け、各グループで意見交換を行った。</p> <p>①地域生活支援拠点等の体制整備に関すること ②基幹相談支援センターの機能強化に関すること ③相談支援・障がい児相談支援の充実に関すること</p>
主な意見・回答	<p>①相談支援・障がい児相談支援の充実に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何かあったときに相談できる体制を作るためには、一般相談の充実が大切。平常時の支援がそこまで必要なくともまず登録し、相談したい時に話せる環境があると良い。 ・セルフプラン自体が悪いものではなく、必要がある人、無い人、グラデーションがあるため、そこをうまく利用していく必要もあるのでは。例えば、安定したらセルフプランにし、何か困ったら計画相談に戻すといった流動的なことができると良い。 ・障がい児相談支援の計画作成に、保育園など本人の支援に関わっている人も含めて作成できると良い。計画相談と本人を取り巻く支援者のパートナーシップが必要。 <p>②基幹相談支援センターの機能強化に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基幹相談支援センターが区内に複数か所があると良い。 ・事業所へのアウトリーチにて、事業所が困っていることや実務担当者連絡会の運営に関して話を聞くことで、区としての計画相談の底上げや実務担当者会の活動に活かせるのではないか。 ・社会資源ガイドマップの作成や更新など、事務的な作業を委託化・スリム化することで、相談体制の機能や人材育成により注力することができるのではないか。 <p>③地域生活支援拠点等の体制整備に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域生活支援拠点の周知について、福祉関係者は知っている人が増えてきたが、それ以外の医療関係者などは、このような会議の場に参加しないとわからない。 ・国の意向もあり取り組み始めたのかもしれないが、当事者や家族の方々は地域生活支

主な意見・ 回答	援拠点に対し、どう思っているのか、ニーズがどれだけあるのか、という点から、地域生活支援拠点の整備に関するニーズを調査しても良いのではないかと。 ・親子で入所できる施設が他県にあることを知った。本当の意味で親子が安心して地域で過ごせるという考えだと、そのような施設も板橋にあったら良い。
今後の 方向性	今回の意見をもとに、準備会などを経て今後の相談支援部会の取組に反映していく。